

特集1

ポール・ド・マン

上原正博（うえはら・まさひろ）

専修大学法学部教授。アメリカ文学・文学理論。主な業績として「兵士の報酬——ハーマン・メルヴィル『イスラエル・ポッター』」「現文研」第九四号、「法と主体の問題」川島武宜『日本人の法意識』再読『専修大学法学論集』第一二三号。共著に、土屋昌明編『映像の可能性を探る』（専修大学出版局）、日比野啓・下河辺美知子編著『アメリカン・レイバー 合衆国における労働の文化表象』（彩流社）ほか。

遠藤不比人（えんどう・ふひと）

成蹊大学文学部教授。イギリス文学・文学理論。単著『死の欲動とモダニズム——イギリス戦間期の文学と精神分析』（慶應義塾大学出版会）、『情動とモダニティ——英米文学／精神分析／批評理論』（彩流社）、翻訳として、トッド・デユフレーヌ『死の欲動と現代思想』（みすず書房）ほか。

大田信良（おおた・のぶよし）

東京学芸大学教授。イギリス文学・文学理論。単著『帝国の文化とリベラル・イングリランド——戦間期イギリスのモダニティ』（慶應義塾大学出版会）、共著『冷戦とアメリカ——覇権国家の文化装置』（臨川書店）、『イギリス映画と文化政策——ブレア政権以降のポリティカル・エコノミー』（慶應義塾大学出版会）、『文学研究のマニフェスト——ポスト理論・歴史主義の英米文学批評入門』（研究社出版）ほか。

鈴木英明（すずき・ひであき）

昭和薬科大学教授。イギリス文学・文学理論。論文「隔たりの経験——ポール・ド・マン」時間性の修辞学」における襲」『レイモンド・ウリアムズ研究』第一号ほか。翻訳として、スビヴァク『ナショナリズムと想像力』（青土社）、コブチェック『わたしの欲望を読みなさい』（共訳、青土社）ほか。

中山徹（なかやま・とある）

一橋大学言語社会研究科教授。イギリス文学・文学理論。単著『ジョイスの反美学——モダニズム批判としての『ユリシイズム』』（彩流社）、

共著『文学研究のマニフェスト——ポスト理論・歴史主義の英米文学批評入門』（研究社出版）ほか。スラヴォイ・ジジエクの翻訳多数。